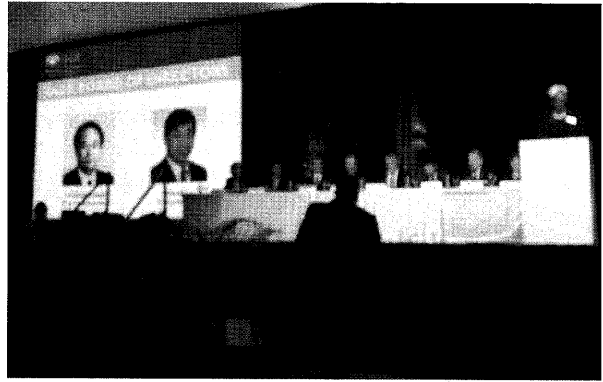


嬉しいことに、SOPCのIADR Academyで議論され、今年のBoard会議で来年のシアトルで開催されるIADR総会では、2日間の予定で先進研究技術のAcademic Research Workshopを開く計画が進んでいます。

さて、どの学会でも学会メンバーの減少、そして予算の減少が問題になって学会活動が困難になっております。IADR/JADRも例外ではありません。JADR会員の皆様には新会員の獲得にご支援を頂戴できますようお願い申し上げます。また、私、今年からIADR Boardに参加致しますが、私のJADRでの重要な仕事としてIADRとのパイプ役があると心得ております。IADR Central Office, Boardへの要求や助言がございましたら是非、メールでご一報下さいませますようお願いいたします。(E.mail: abiko.yoshimitsu@nihon-u.ac.jp)



写真は、イグアス大会のBoard MeetingでVise President Abiko (左)とTresurerの香港大学 Dr. Lo (右)の紹介です。

## Ⅲ. 第90回IADR学術大会 (Iguassu Falls) 報告

### 1. 2012 IADR Distinguished Scientist Award (Geriatric Oral Research Award) を受賞して 宮崎 秀夫 (新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野)

受賞者の主要研究領域(歯周病の疫学、高齢者の口腔保健研究—口腔と全身健康との関連性、および、口臭)における研究歴は25年におよぶ。特に、口腔健康が全身健康の保持増進に必須であることを多角的に示した新潟高齢者スタディーから得られた成果は、日本での健康増進法、新健康フロンティア戦略策定において口腔保健をコアの一つに位置づける役割を果たし、また、歯科口腔保健推進法制定時の科学的裏付けとして重要な役割を果たした。さらに、WHOの「21世紀における口腔保健の世界戦略」構築に際し、科学的支援の一翼を担った。

上記が、IADRが公表した受賞理由の概略です。私は、1978年に口腔衛生学・予防歯科学分野の大学院生として、う蝕と歯周病の疫学をベースとした国際保健研究からスタートしました。1989-90年にWHO Oral Healthで仕事をさせていただいてからは、口腔保健に関する政策研究(Oral Health Services Research)を意識するようになりましたが、高齢者研究に特化したものではありません。今回、高く評価していただいた新潟高齢者スタディーは1998年から継続している疫学研究です。口腔と全身の関係性を調べるのが目的ですから、歯学研究者のみならず、医学、栄養学、運動生理学など多くの研究者に日本の内外から参加していただいています。現在まで94編の論文を公表しましたが、高齢者の健康保持に対する口腔疾患あるいは口腔形態・機能の関わりについて、まだ全容を説明することができません。すべからく、疫学というのは一つの研究が終了するまでに長期間、かつ、多大なマンパワーを要します。つまり、疫学研究はチームプレーであって、個人

の業績として評価されるものではない気がいたします。

しかしながら、歯学研究組織の最高峰であるIADRから表彰を受けましたことは、高齢者研究に携わる者の母数が少ないとは言え、研究者としてこれ以上ない荣誉と、研究チームの代表として喜んでおります。

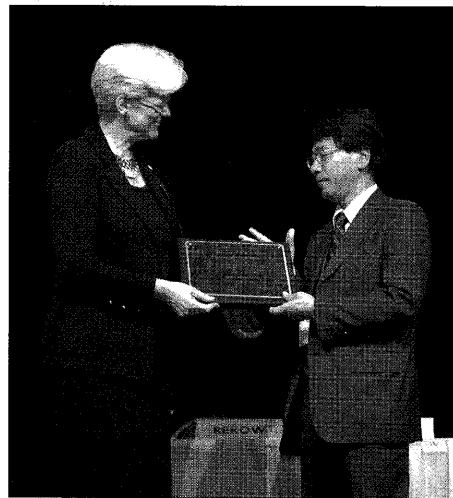


写真1 Opening CeremonyにてDianne Rekow IADR会長から受賞



写真2 受賞プラーク